

International University of Health and Welfare
「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

2023.9.14発行

vol.134



大田原キャンパスでのオープンキャンパス(視機能療法学科での学科体験)

特集

国際交流・海外医療活動の取り組み 医学部海外臨床実習レポート 夏のオープンキャンパス



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

国際医療福祉大学の国際交流・海外医療活動の取り組み

コロナ禍が落ち着きを見せるなか、本学の国際交流・海外医療活動も本年度から本格的に再開はじめている。アジアの国々とのこれまで以上の協力体制の確立により、日本のみならずアジア全体の医学教育や医療福祉分野での貢献をめざす本学の、最近の国際交流・海外医療活動の取り組みについてレポートする。

高木理事長、鈴木学長がブータン、タイを訪問

高木邦格理事長、鈴木康裕学長が、2023年7月、ブータン、タイを訪問した。ブータン訪問の目的は、王立公務員委員会と本学医学部奨学生受け入れのためのMOU（覚書）締結、ブータン王立医科大学との学術協定締結であり、タイ訪問は、国立マヒドン大学との学術協定締結である。



●ブータン教育省にて

タイ・国立マヒドン大学との学術協定締結

7月9日に日本を出発し、タイ・バンコクに到着した高木理事長、鈴木学長は、7月10日、国立マヒドン大学を訪問し、学術協定を締結した。本学医学部生の海外臨床実習受け入れと公衆衛生分野での関係構築について、Banchong Maha Savariya学長

haisavariya学長と協議を行い、今後、医学教育や医療福祉分野の人材育成における協力体制を確立していくことが確認された。



ブータン王国立公務員委員会とのMOU締結

タイからブータンに入った高木理事長、鈴木学長は7月11日、教育省を訪問し、ブータン政府から選定された成績トップの学生を本学医学部で受け入れるためのMOUを王立公務員委員会と締結した。医学部がないブータン王国では、成績最優秀の高校生から40人前後が奨学生として選定され、インド、パキスタン等の近隣国の医学部に留学し、卒業後母国に戻って医師として従事するシステムが確立されている。そ

した進学ルートはあるものの、やはり医師不足は同国にとって深刻な問題である。人口約80万人のブータンは、医師の数はわずか200人しかいないと言われている。今回のMOU締結により、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー、インドネシア、モンゴルに加え、新たにブータンからの医学部留学生を本学で受け入れることで、同国の医療福祉分野の発展に大きく貢献することが期待されている。調印式に参加した教育大臣、王立公務員委員会コミッショナーからは、今後のブータンの医学教育と医療福祉分野の発展にとって、本学のIUHW医学部奨学金制度には特別大きな意味があると深い感謝の意が述べられた。



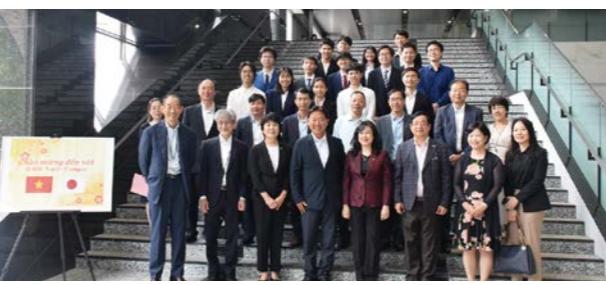
ブータン王立医科大学との学術協定締結

高木理事長、鈴木学長は7月12日、ブータン王立医科大学を訪問し、同大学との学術協定を締結した。同大学には、看護公衆衛生学部、伝統医学部、卒後医学部の3学部があるが、医学部はない。本学はブータン政府およびブータン王立医科大学からの強い要請を受け、同国初となる医学部設置に向けて協力をを行うことが確認された。また、看護や理学

療法などのリハビリテーション分野、さらに公衆衛生専門職大学院での留学生受け入れについても、前向きに検討することとなった。

初の訪問となったブータンでは、各訪問先での協議を通じ、相互の信頼関係が構築されていることが確認された。医師不足などの課題があるブータン王国から本学に大きな期待が寄せられている。

ベトナム保健大臣、本学グループ施設を視察



●ベトナム保健大臣を囲んで記念撮影

ベトナム保健大臣ダオ・ホン・ラン氏一行が来日し、7月6日、国際医療福祉大学成田キャンパス、国際医療福祉大学成田病院、山王病院を視察した。

ラン保健大臣は、国際協力局長、財務計画局長、医療サービス局長、医薬品管理局長同行の下、鈴木康裕学長、坂元亨宇医学部長をはじめとする本学関係者と医学部のベトナム人留学生らの出迎えを受け、成田キャンパスに到着。ランチミーティングで鈴木学長が、これまで本学とベトナムとの間で教育や医療に関して築いてきた協力関係について説明すると、ラン保健大臣は「これまでに国際医療福祉大学の皆様方からベトナムにお寄せいただいた気持ちに感謝いたします。ベトナムでは医療福祉分野



●ラン保健大臣から鈴木学長への記念品贈呈

における人材育成が重要視されており、今後も注力してまいりたいと思います」と述べた。

成田病院では、吉野一郎病院長や潮見隆之副院長、桐生茂副院長をはじめとする病院関係者、ベトナム人臨床研修医、実習中の5、6年生らが出迎えるなか、健診棟の成田国際ホールから視察をスタートした。健康増進センター、礼拝室、予防医学センター、リハビリテーションセンター、手術室など各施設の説明を受けながら見学した後、一行は成田地区から東京地区・山王病院へと移動した。山王病院では、藤井知行病院長による案内で院内を見学した。



●吉野病院長らの出迎えを受け
成田病院に到着する一行



●ベトナム人臨床研修医と実習中の
5、6年生らと談笑する保健大臣

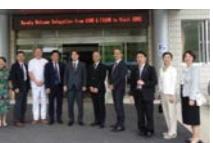
また、高木邦格理事長との面談においては、ファム・ケアン・ヒエウ駐日ベトナム特命全権大使も同席の下、今後のベトナムにおける医療福祉分野の発展に対する協力体制につき活発な意見交換が行われた。また、日越外交関係樹立50周年を記念し、9月29日にベトナム・ホーチミンで開催を予定している本学主催の国際医療協力シンポジウムについても協力を得られることが確認され、今後もますます本学とベトナムとの協力関係が発展していくことが期待される。

本学グループ視察団、CRRC・中日友好病院を訪問

中国・北京にある中国リハビリテーション研究センター(CRRC)では、本学に留学して日本の理学療法士、作業療法士の国家試験に合格した卒業生が現在多数活躍している。また、中日友好病院と本学は医療協力協定を締結している。7月28日～30日、本学視察団は、本学と縁の深いCRRCおよび中日友好病院、さらに北京大学医学部の視察と、国際医療福祉大学中国支部同窓会出席のため北京を訪問した。(視察団メンバー：国際医療福祉大学成田キャンパスの西田裕介成田保健医療学部学長、谷口敬道作業療法学科長、



●中日友好病院の宋書記と本学視察団



●CRRC視察



●同窓会で挨拶する高木常務

高木理事長、中国・国際リハビリテーション100周年記念 ～世界で最もリハビリテーションの発展に貢献した100人～に選出

中国障害者連合会主催の国際リハビリテーション100周年を記念して設けられた「世界で最もリハビリテーションの発展に貢献した100人」に、高木理事長が選ばれた。

本学と中国との交流は1996年、本学が旧郵政省の通信・放送政策から発足した通信・放送機関（通称TAO）との連携の下、中国およびアジア諸国に対する遠隔リハビリテーション教育推進プロジェクトへ参加したことがきっかけだ。この実証実験は、のちの中国とアジア諸国リハビリテーション医療技術分野の発展に大きく貢献した。その後も、CRRCのリハビリテーション専門職のフルスカラシップでの受け入れや、首都医科大学における初め

ての理学療法士と作業療法士の養成課程の設立、一期生卒業までの教育課程支援で、本学からの教員派遣や首都医科大学から多数の研修スタッフを受け入れるなど、さまざまな取り組みを行ってきた。

現在では、中国出身の多くの本学卒業生が、中国におけるリハビリテーション医療技術分野の責任者となるなど、母国のリハビリテーションの発展に大きく貢献している。このたびの受賞は、高木理事長が長年にわたり献身的に取り組んできたこれらのプロジェクトが、国際的に広く認められたことの証左となった。

医学部2期生、4週間の海外臨床実習

世界18か国・地域で123人参加

医学部2期生の海外臨床実習が4月から6月にかけて、各学生4週間、アジア、欧米の18か国・地域の大学医学部・医療機関で行われた。本学の特長である全員必修の海外実習は昨年、1期生が初めて参加したが、コロナウイルス禍、日本でリモートの実習を行った学生もあった。現地での本格的な実施は今回が初めて。実習には奨学生16人を含む123人が参加した。

海外臨床実習は「医療の国際化に対応した幅広い知識と高いコミュニケーション能力をもち、海外の医療現場で活躍できる」とした本学医学部のディプロマポリシー（学位授与の方針）の一環。グローバルに活躍できる医師として羽ばたく前に学生たちに課せられた総仕上げだ。

国別で最多の69人が参加したのは昨年同様、ベトナム（昨年は71人）。昨年はコロナ禍の影響で約50人が成田キャンパスに残り、「バーチャル海外実習」を行ったが、今年は本学との提携校・提携病院（9か国、13施設）に101人、提携校・提携病院以外（9か国・地域、22施設）に23人、さらに両方に参加した学生が1人だった。

人数として最も多かったのはフエ医科大学（ベトナム）で28人。以下、ホーチミン市医科大学（同）の21人、ハノイ医科大学と国立チョーライ病院（同）の9人、リトニア健康科学大学（リトニア）の8人、ヴロツワフ医科大学（ポーランド）の7人、ラオス国立健康科学大学（ラオス）の4人。提携校以外では国立台湾大学（台湾）で4人が実習を受けた。

一方、アジア各国からの学費免除の奨学生留学生はベトナム人7人、ミャンマー人3人、モンゴル人2人、インドネシア人1人、カンボジア人2人、ラオス人1人の計16人がそれぞれの出身国の医療機関で実習を受けた。



●ハノイ医科大学で実習した9人らと矢野晴美センター長（前列中央）

2023年度 医学部6年次海外臨床実習

（訪問国・地域と訪問先施設、学生数）

国・地域	大学・施設	人数
ベトナム	ホーチミン市医科大学	21
	国立チョーライ病院	9
	国立フンブン病院	2
	ハノイ医科大学	9
	フエ医科大学	28
モンゴル	モンゴル国立医科大学	2
インドネシア	ウダヤナ大学	2
カンボジア	国立保健科学大学（カルメット病院）	3
ラオス	ラオス国立健康科学大学（セタティラート病院）	4
ミャンマー	ヤンゴン総合病院	3
リトニア	リトニア健康科学大学	8
ハンガリー	センメルワイズ大学	2
ポーランド	ヴロツワフ医科大学	7
米国	ヒューストン・メソジスト病院	1
	アン・アンド・ロバート・ルーシー小児病院	2
	ブリガム・アンド・ウィメンズ病院	3
	ピッツバーグ大学スクールオブメディシン	1
英国	リーズ大学	1
	ロイヤルフリー病院	2
	ユニバーシティーカレッジ・ロンドン・メディカル・スクール	2
	アングリア・ラスキン大学	1
台湾	Alder Hey Children's Hospital	1
	バーミンガムこども病院	2
	国立台湾大学	4
韓国	ソウルアサン病院	2
マレーシア	国立ソウル大学	1
	マラヤ大学	1
スペイン	スパンジャヤ・メディカルセンター	1
	ヴァルデプロン大学病院	1
スイス	チューリヒ大学病院	1
	Institute Orthopedic Rizzoli	1
イタリア	Isokinetic Bologna	1
	Policlinico Gemelli	1
	Hôpital Femme Mère Enfant	1
フランス	Le Service de Prévention et de Santé au Travail Corrèze-Dordogne	1
	成田キャンパスリモート実習	1
その他		1



●リトニア健康科学大学で

海外臨床実習を受けて

海外臨床実習で、学生たちは、日本だけでは得られない、貴重な体験を積んだようだ。参加した学生から感想を聞いた。

●萩野 陽菜乃さん

（Hôpital Femme Mère Enfant（フランス））
（Policlinico Gemelli（イタリア））
（Le Service de Prévention et de Santé au Travail Corrèze-Dordogne（フランス））



●小児脳神経外科指導教授のディロココ教授と萩野さん（右）

多くの魅力的な提携校、提携施設がある中で、これらの国、施設を選んだ理由は、小中学時代にフランスで育ったということもあるが、一人で異なる文化圏での経験を通じて成長したいという気持ち、学生時代に、先進国の医療を見ておきたいという気持ちが強かったからだ。フランス、リヨンの産婦人科では三つ子の妊娠における減退手術の選択など、倫理的な問題について深く考える機会を得、これらの状況が患者さんの価値観や宗教的な信念、家族との関係性などと複雑に絡み合うことを学んだ。前例のない貴重な機会を提供してくださった教授、紹介していただいた脳外科の下地一彰教授をはじめ、渡航に力添えいただいた先生方、家族に深く感謝している。

●八塙 知樹さん

（Alder Hey Children's Hospital（英国））



●八塙さん（左）

仲間がいない初めての国、初めての病院、という環境に身を置く同時に、日本で経験していなかった小児外科、小児救急科を見たいと、英リバプールの病院を実習先に選んだ。さまざまな国出身の患者、スタッフのそれぞれの文化が尊重されていた。たまたま研修期間中にはイスラム教の断食月ラマダンに遭遇したが、病院はイスラム教徒に配慮しており、新鮮だった。実習2週間に手術室でストが起き、1週間手術ができなくなったのには驚いたが、それも権利として認められている、と感じた。今後壁にぶつかった時でも、きっと乗り越えられるという自信もついたと思う。

●澁谷 友梨さん（リトニア健康科学大学（リトニア））

リトニアで学んだことは、世界には日本とは異なる技術や治療法、医療器具があるということだ。これらの違いを知ることで患者さんにとって最適な治療法は何かを比較して考えることができるようになった。しかしそれよりも強調したいのは、英語がいかに大事かを実感できたことだ。英語を習得することは最新の医療技術にアクセスできることを意味する。英語に苦手意識のあった低学年時よりも英語学習意欲が強くなった。



●澁谷さん

●小野 祐実さん（ヴロツワフ医科大学（ポーランド））

病院全体で業務の細分化により、効率的かつコストパフォーマンスが高いシステムを取っていることに驚いた。前の手術が終わって約30分後には次の手術が同じ手術室で始まったのを見たときは衝撃的だった。日本では症例が少ない献腎移植手術を見ることができたことも勉強になった。実習先の病院、大学だけでなく、寮、街全体に国籍、宗教の違う人が多くいた。実際に異文化を体験でき、それを学ぶことができてよい経験になった。



●ヴロツワフ市庁舎前の小野さん

●猪俣 春稀さん（センメルワイズ大学（ハンガリー））

センメルワイズ大の小児科は診療科ごとに細かく分かれているので、炎症性腸疾患（IBD）や消化器疾患について学ぶことができた。また、学生に聴診やその他の身体診察を取りってくれる先生が多かったので乳幼児の身体診察を系統立てて行えるようになった。肝臓の移植手術の見学は貴重な経験だった。肝臓は摘出後12時間以内で移植しなければならない。近隣国から臓器が届く夜中から手術開始になることも多く、しかも長丁場。おかげで忍耐力が培われた。



●猪俣さん

東欧の提携校で初の実習 多様性の意義学ぶ

矢野晴美 医学教育統括センター長

察の重要性を体感したとの感想が多かった。また、個人手配の学生の実習施設も多彩となり、どの学生もそれぞれに、多様性や社会文化背景の相違の理解、英語力の重要性、医師患者の信頼関係、困難に立ち向かう姿勢など深い学びを得た。

高木理事長、第123回日本外科学会定期学術集会で特別講演

4月27日～29日の3日間にわたり、東京都港区のグランドプリンスホテル新高輪にて開催された第123回日本外科学会定期学術集会の特別講演に、高木邦格理事長が登壇した。一般社団法人日本外科学会は1899(明治32)年に創設され、会員数40,000人を超える、日本の医学系学会では日本内科学会に次ぐ規模を誇る学会だ。

特別講演は4月29日の会期最終日、大規模なイベント会場として日本有数規模である同ホテル「飛天」に設けられた会場で行われた。高木理事長は「医学教育・医療の国際化」をテーマに、国際医療福祉大学・高邦会グループの紹介、医学部新設の経緯や苦難、今後の国際医療協力、外科医へのエールに至るまで幅広く話題を展開した。



●グランドプリンスホテル新高輪「飛天」に設けられた特別講演会場

国際医療福祉大学・高邦会グループの紹介と医学部新設の経緯

特別講演の冒頭、司会を務めた日本外科学会理事長の池田徳彦東京医科大学教授より、高木理事長について「高木理事長とは東京医科大学時代の同期でしたが、学生時代から親分肌で、とても面倒見のよい先生でした。現在、こうした大きなグループをまとめておられるのは、当時と変わらぬ先生の面倒見のよさが表れているからかもしれません」と紹介。その後、高木理事長に登壇が促され、約1時間にわたる特別講演がスタートした。

高木理事長は冒頭、国際医療福祉大学・高邦会グループの成り立ちや歴史、現況について、スライドを用いて紹介した。国際医療福祉大学の開学の目的の1つは、「チーム医療」の実践に欠かせない医療福祉専門職の養成を通じて医療福祉専門職の地位向上を図ることであったと話し、さらにその「チーム医療」の船長となる医師の養成を2005年ころから検討してきたことに触れた。そして「過去の慣習にとらわれない新しい医学教育の在り方」を検討するも、文部科学省大臣告示によって医学部新設を阻まれるなどさまざまな苦難の末、国家戦略特区の活用によって千葉県成田市での医学部新設がようやく実現したことを紹介した。

国際医療協力と外科医へのエール

国際医療協力に積極的な理由について、高木理事長は、アメリカが戦後、医療福祉分野においても日本からフルブライト留学生を受け入れ、将来の日本の医療福祉分野を牽引するリーダーとなるよう育成したことの感銘を受けたことが背景にあると説明した。開学以来、留学生を積極的に受け入れてきたことや、医学部以外の学部学科の学生も対象としている「IUHW奨学金制度」について、現在も年間10億円に上る予算で実施していることを紹介した。

「医療の国際化」については、インバウンドでは、国際医療福祉大学成田病院の予防医学センター・人間ドック、国際



●1時間にわたり特別講演を行った高木理事長



●司会を務めた日本外科学会理事長の池田徳彦東京医科大学教授



●大木隆生会頭より感謝状のサプライズ贈呈を受ける高木理事長

第31回日本心血管インターベンション学会学術集会 レポート

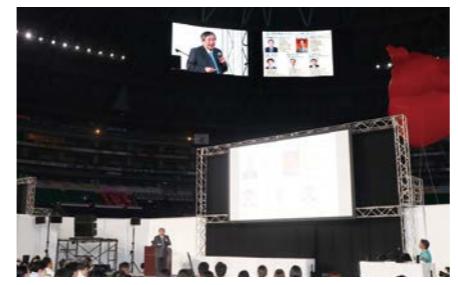
4年ぶりの対面開催で参加者は過去最高に

8月4日～6日の3日間にわたり、福岡PayPayドームとヒルトン福岡シーサイドホテルにおいて、福岡山王病院院長の横井宏佳先生(福岡国際医療福祉大学教授)が大会長を務めた第31回日本心血管インターベンション治療学会学術集会(CVIT2023)が開催された。4年ぶりの完全対面開催となった今回の学術集会には、国内外から過去最高の7,000人を超える参加者が集まり活発な議論が交わされた。

また、福岡山王病院を含む全国9病院で行われた30症例のカテーテル治療の様子が、ヒルトン福岡シーサイドホテル会場、福岡PayPayドームオーロラビジョンへライブ配信された。福岡山王病院でも3症例が行われ、そのうちの1つに第123回日本外科学会でも会頭を務めた、東京慈恵会医科大学外科学講座Chairmanの大木隆生教授が参加した。ライブ映像は学術大会会場のみならず、来日がかなわなかったアジア各国のインターベンション医師の教育のためアジアへも生配信された。



●ライブ配信後の記念撮影
左端が大木教授、その隣が横井病院院長



●福岡PayPayドーム会場での特別講演

特別講演に高木理事長が登壇

高木邦格理事長は会期初日の8月4日に福岡PayPayドームに設けられたステージに登壇し、特別講演を行った。「国際



●特別講演を行う高木理事長



●著名人によるトークショー

医療福祉大学の医学教育と医療の国際展開」をテーマに、前半は本学医学部が行ってきた革新的な医学教育について、後半は医療の国際化にあたって日本が抱える課題や本学が行っている取り組み等について、スライドを用いて講演した。

8月6日の会期最終日には、脳卒中・循環器病対策基本法に基づき一般市民への心臓血管病の理解を深め、疾病予防への取り組みを啓蒙すること目的とした、市民交流体験型イベントの『脈博2023(HEART BEAT EXPO2023)』が開催された。福岡PayPayドームが一般に開放され、5,000人を超える市民が参加した。『脈博2023』では、高島宗一郎福岡市長、秋野公造参議院議員、自見英子参議院議員が挨拶したほか、著名人が闘病体験を話すトークショーも行われた。フリーアナウンサーの徳光和夫さん(心筋梗塞)、タレントの磯野貴理子さん(脳梗塞)、サウンドクリエーターのDJ KOOさん(脳動脈瘤)が、病気からどのように命の危機を乗り越え復帰に至ったかを語った。

横井会長「CVITとIUHWに無限の可能性を感じた」

今回の大会長を務めた横井先生は、開催にあたり「日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)が患者さんのために、若手医師のために、未来に繋がるものになればと思い、学会テーマであるSDGs for Interventionに思いを込めて準備を進めてまいりました。お陰様で医療従事者と一般市民を合わせて12,000人を超える参加者にお集まりいただき盛況に大会を終えることができました。学会当日運営には200人を超える福岡国際医療福祉大学の学生さんに協力いただき、また300人を超える海外参加者の通訳として、今年国際医療福祉大学を卒業したアジアからの研修医の先生にもお手伝いをいただきました。CVITと国際医療福祉大学の無限の可能性を感じる熱い夏となりました。皆さんのご協力に感謝申し上げます。To be involved in medicine, you must innovate.」と感謝の気持ちを述べた。



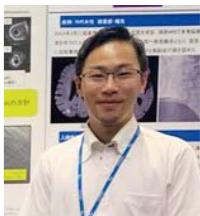
●「脈博2023」で挨拶する横井先生



●子どもたちが楽しめる催しも

本学医学部6年生がポスター演題で発表

医学部医学科6年生の岩城さんは、「低左心機能患者の冠動脈高度石灰化病変に対してIVL (intravascular lithotripsy) が有効であった1例」というテーマで発表した。今回の学術集会参加にあたっては、「CVIT2023大会長の横井先生をはじめ、直接ご指導いただいた筒井好知先生に感謝申し上げます。準備の過程では、右も左も分からない中で苦労しましたが、『いつかこの経験はきっと役に立つ』という積水成淵の気持ちで、最後まで取り組むことができました。発表では、私は唯一の学生演者でもあり、緊張しましたが、堂々とした発表ができ、貴重な経験をさせていただきました。私のこの経験が、本学の同期・後輩の明日へのモチベーション向上に繋がればと思います」とコメントした。



医学部医学科6年
岩城 叢遼さん
(いわしろ えいと)

5キャンパスで開催! 夏のオープンキャンパスレポート

今年も各キャンパスで夏のオープンキャンパスが行われた。いずれのキャンパスでも、来場した高校生や保護者に楽しみながら医療福祉分野の学びと仕事を魅力を体感してもらうプログラムを数多く実施した。コロナ禍では実施が難しかったプログラムを再開させるキャンパスも増え、来場者とより深く交流することができた夏となった。

大田原キャンパス

大田原キャンパスでは、7月30日、8月11日、8月19日に夏休みのオープンキャンパスを開催した。

この夏も学内を自由に見学できる形式で開催したこともあり、7月30日および8月11日の参加者数はコロナ前の同時期開催実績を大きく上回り、いずれのプログラムにも大勢の参加者が詰めかけた。

今回は参加者により一層満足してもらえるようさまざまなプログラムを追加した。その1つである「選べる入試ガイダンス」は、入試説明を「専願制」、「併願制」、「入試の種類」、「薬学部」の4つに分け、参加者が聞きたい説明を選べるスタイルで開催した。

「ぐるっとバスツアー」は、広大な大田原キャンパスをバスで回り、関連施設も含めたキャンパス内の主な建物をガイド役の学生スタッフが説明した。また「面接対策講座」では、参加者がより詳しく理解できるように演劇部の学生が良い見本と悪

い見本を実演するなど、全体を通して学生が積極的にプログラムに加わったオープンキャンパスとなった。こうしたことから、参加者からは「学生さんの雰囲気がとてもよかったです」、「学生がみんな穏やかで優しくて楽しいオープンキャンパスだった」、「案内、説明を担当していたのが学生さんで、非常に充実した内容だった」といった、本学学生に対して好印象を抱いたという内容の感想が多く寄せられた。学生と本学を身近に感じてもらえるオープンキャンパスとなった。

(入試広報室 川上二郎)



成田キャンパス

成田キャンパスでは6月4日、8月6日、8月19日にオープンキャンパスを開催し、8月の2回については医学部オープンキャンパスも同時開催にて実施した。

今回のオープンキャンパスでは、各学科による学科企画、学科横断のシールラリー、大学紹介、入試説明、リハビリ職の入門講座、個別相談、図書館の見学等の催しを行った。

各学科フロアの学科企画では、教員や学生による説明や体験企画を実施。また、大階段上の2階フロアでは、作業療法学科のメタバース体験が行われた。いずれも多くの参加者で賑った。



●言語聴覚学科の受付の様子

●数多くの来場者が訪れた大学説明会

●片手で料理をするVR体験ができる作業療法学科のプログラム

Otawara

い見本を実演するなど、全体を通して学生が積極的にプログラムに加わったオープンキャンパスとなった。こうしたことから、参加者からは「学生さんの雰囲気がとてもよかったです」、「学生がみんな穏やかで優しくて楽しいオープンキャンパスだった」、「案内、説明を担当していたのが学生さんで、非常に充実した内容だった」といった、本学学生に対して好印象を抱いたという内容の感想が多く寄せられた。学生と本学を身近に感じてもらえるオープンキャンパスとなった。

(入試広報室 川上二郎)



Narita

大学紹介では2024年4月開設予定の成田薬学部(認可申請中)についての説明も行った。また、成田薬学部や東京赤坂キャンパスの特設コーナーを設置し、参加者の疑問に答えた。

参加者からは、「学生さんにとっても親切に接してもらい、いろいろなことを知ることができました」「参加企画の先生や学生の方がとても優しくて話しやすかったです」「学科の概要説明がとても分かりやすく、体験も楽しくて医療職により興味を持つことができました」「入試について詳しく聞けて良かったです」といった感想が得られた。

(広報 城貴弘)



●言語聴覚学科の受付の様子

●数多くの来場者が訪れた大学説明会

●片手で料理をするVR体験ができる作業療法学科のプログラム

東京赤坂キャンパス

東京赤坂キャンパスでは赤坂心理・医療福祉マネジメント学部を対象に、6月11日、7月16日、8月6日、20日の4日間オープンキャンパスを開催した。猛暑が続くなかで多くの高校生、受験生および保護者が来場した。

各学科の説明を含む総合ガイダンスやグループワークなどを取り入れた参加型の学科体験を通じて、心理、医療マネジメントの学びに触れる機会のほか、コロナ禍が落ち着いてきた今年は、参加者が在学生と気軽におしゃべりできる「学生カフェ」を再開し、コミュニケーションの場を設けた。学生スタッフの希望者も増え、揃いのポロシャツ姿で日々の勉強や学生生活について、さまざまな企画を通じて生の声を届けた。

また、各回ごとの特別企画として、学部長、学科長による講演や入試対策講座、卒業生と学生によるトーカライズなどを展開した。これらの取り組みの影響からか、

複数回来場する参加者も増えた。

参加者からは「学科体験を通して学びの内容を理解できた」、「在学生と直接話すことができて、進路選択の参考になった」などの感想が得られた。10月7日には大学祭「茜陵祭」と同時開催する予定だ。

(事務部 並木祐介)



●来場者が在学生とおしゃべりできる「学生カフェ」

Tokyo Akasaka

Odawara

小田原保健医療学部(看護学科、理学療法学科、作業療法学科)では、7月30日、8月6日にオープンキャンパスを開催した。2日間で約700人が来場した。

昨年まではコロナ禍で思うように進路検討ができなかった高校生が、目を輝かせながら来場する様子が見られた。

「学科紹介」では、3学科が短いデモンストレーションを行い、学科施設の特徴や見どころを説明した。また「学科体験入学」では、来場者に模擬授業や実際に使用する教材を体験してもらった。看護学科では新生児人形を用いた赤ちゃんのお世話体験、理学療法学科では筋力を調べる測定器の体験、作業療法学科ではクイズ形式で作業療法を理解する体験を行った。

夏開催の特別イベントとして「附属病院を知ろう」「専願制選抜対策講座」「在学生が語る小田原キャンパスの魅力」など「小田原で学ぶ」シリーズを開催し、好評を得た。

参加者から「先輩になる学生からリアルなお話を聞いて参考になった」「進路に関する不安解消ができた」「病院で働く人と直接話が聞け、非常に参考になった」との感想があった。

イベントの運営には多くの在学生が携わった。昨年参加者側だった1年生が、高校生を上手に案内するなど大学生らしく成長した姿をさまざまな場面で見ることができた。

(学務課 大山聰)



●理学療法学科個別相談

大川キャンパス

福岡保健医療学部(看護学科、理学療法学科、作業療法学科、医学検査学科)、福岡薬学部(薬学科)で、7月23日、8月5日にオープンキャンパスを開催し、2日間で約850人が来場した。この夏最後となる8月20日の申し込み者も450人を超える。この日だけでも昨年実績を100人以上も上回る勢いだ。長崎県、佐賀県、大分県、熊本県、福岡市からの無料送迎バスも運行し、多くの参加者が来場した。

8月5日には、新任の筒井裕之副学長による講演「これから医療に期待されること」も実施した。心臓病の治療や研究の第一人者であり、高木病院病院長でもある筒井副学長は、ICTやAIなどの技術革新に触れながら、これらの技術を医療とどう組み合わせていくか、これから医療専門職にはどんな力が必要かについて解説。「高木病院と一体化した教育環境で医療を学べるこの大川キャンパスで、ぜひそうした力を身につけてほしい」と

結んだ。

いずれも、午後からは学科企画プログラムにより、模擬授業や仕事体験、障害者のトーカライズ、実習体験などを実施。「パンフレットだけでは分からなかったことを今日のオープンキャンパスを通してたくさん知ることができます」「講演がおもしろく、医療に対する興味・関心が強まった」といった感想が寄せられた。

(入試学生募集課 堀尾利江)



●会場の講堂には多くの参加者が集まっている

Okawa

副大学院長着任のお知らせ

前公益社団法人日本看護協会福井トシ子会長、国際医療福祉大学大学院副大学院長に着任

6月8日、前公益社団法人日本看護協会会長の福井トシ子先生が国際医療福祉大学大学院副大学院長に着任した。福井副大学院長は本学大学院を修了した保健医療学博士である。来年は、日本で開講している大学院がまだ少ないDNP(実践看護学)コースを開設し、高度実践看護師養成の陣頭指揮を執る。

看護の力で健康な社会をつくる

福井トシ子副大学院長は、着任にあたり次のように決意を述べた。「日本看護協会会長の任期が満了となり、6月7日の日本看護協会通常総会をもちまして退任いたしました。6年の間、皆様方には力強くお支えいただきましたこと、心より感謝を申し上げます。6月8日からは、国際医療福祉大学大学院副大学院長に着任しました。今後は、本学の博士課程にDNP(実践看護学)コースを開設し、博士号をもって活躍する看護職の養成に注力してまいります。」

また、コロナ禍を経て、看護職の存在の重要性に改めて注目が集まることについて、「この機会を逃すことなく、地域に看護を提供できる場の確保も含めて看護機能の拡充に取り組むとともに、看護の力で健康な社会をつくることに貢献すべく、本学グループの看護職等への支援を実践してまいります」と語った。

2024年度より国際医療福祉大学大学院にDNPコース開講

DNP(Doctor of Nursing Practice)とは、高度実践看護師の最高学位で、大学院教育の変革が行われたアメリカ等では20年前から注目されている。本学大学院では、福井トシ子副大学院長主導のもと、2024年4月に看護学分野博士課程にDNPコースを開設し、実践応用志向のリーダーを養成する。

プロフィール

国際医療福祉大学大学院 副大学院長
国際医療福祉大学グループ看護統括責任者

福井 トシ子

国際医療福祉大学大学院修了 博士(保健医療学)。杏林大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター師長、看護部長を経て、社団法人東京都看護協会副会長、社団法人日本看護協会常任理事、公益社団法人日本看護協会会長を歴任。



このDNPコース開設に先立ち、9月1日東京赤坂キャンパスE棟講堂で、DNPコースをすでに実施している聖路加国際大学・北里大学とともに、DNPコースについて紹介するシンポジウムを開催した。当日は、DNPコースへの進学を検討している方や、最新の高度実践看護教育に関心のある方など多くの参加者が集まった。

(病院広報室 山崎香里)

医療マネジメント学科・田村さんが「東京ゆかりのパラアスリート」認定選手に

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部医療マネジメント学科4年生の田村小瑚さんが、令和5年度・東京ゆかりのパラアスリート認定選手(パラダンス競技)に選出された。東京都の「東京パラアスリート強化事業」の一環として、国際大会で活躍するパラアスリートの継続的な輩出のため、東京にゆかりのある選手(在住・在勤・在学)の競技力向上を支援するもので、田村さんは東京赤坂キャンパス(港区)に在学していることから今回その対象選手となった。

6月18日には東京都庁舎において認定式が行われ、田村さんはトレーナーである日本パラダンススポーツ協会の浅見明子さんとともに出席した。

田村さんは医療マネジメント学科で、診療情報などの医療



●浅見トレーナーとポーズを取る田村さん

福祉について学んでいる。また、手話サークルでも代表として活動するなど大学生活と両立しながら競技に取り組んでいる。8月5日、6日には東京2023パラダンススポーツ国際大会(国立代々木競技場)において、シングルフリースタイルに日本代表として出場した。

(事務部 並木祐介)

第27回あいおいニッセイ同和損害保険奨学生認証式開催

第27回国際医療福祉大学・あいおいニッセイ同和損害保険奨学生認証式が6月19日、東京都渋谷区のあいおいニッセイ同和損害保険本社で行われた。昨年度は新型コロナウィルスの影響で一部オンライン参加の開催となつたが、今年度は全員が対面での参加となり、新納(にいろ)啓介社長から認証状を手渡された。

この奨学生制度は、あいおいニッセイ同和損害保険の前身の同和火災海上保険が医療福祉分野を支える有為な専門職の育成をめざす本学の趣旨に賛同し、創立100周年記念事業の一環として1996年に創設された。1997年度から奨学生の授与が始まり、奨学生の総数は2022年までに237人を数え、奨学生の総額は4億9,000万円に上る。

奨学生は以下のように抱負を述べた。「認証式で実感がわいてきた。好奇心旺盛なところを生かして将来はさまざまな視野を持った薬剤師になりたい」(薬学部 薬学科 山田 ほのかさん)「金銭面の心配から解放され全力で医学の勉強に集中できるようになった。おかげで将来医師になる夢を追い続けることができる」(医学部 医学科 グエン キャン フイさん)「リハビリテーションを通して高齢者や患者様に自分らしく生きてほしいという思いがある。日々変化するリハビリテーションの知識や技術を学び続けたい」(小田原保健医療学部 理学療法学科 小林 栄志さん)「経済的な不安や憂いから解放されて自然と周りを見る余裕が増えたことで多くのことにチャレンジするようになった。奨学生の名に恥じぬよう今の自分に満足せず、精進していきたい。」(福岡薬学部 薬学科 神崎 麗央さん)
※全奨学生のコメントはHPに掲載。

新納社長からは「皆さんの夢の実現に貢献できることを大変嬉しく思っています。皆さんの誰かを思いやる、その気持ちと我々保険会社の考えは似ています。人と



●認証状を授与される奨学生



●参加者全員で記念撮影

「小田原北條五代祭り」でパレード

晴天に恵まれた5月3日、小田原市最大の観光行事「第59回小田原北條五代祭り」が盛大に開催された。今年は小田原を治めた北条家が「伊勢」から「北条」に改姓し500年となる年で、小田原北條氏誕生500年記念事業としており、4年ぶりとなる新型コロナウィルス感染拡大前の規模での本格開催となった。

見どころは、北条歴代城主を模した総勢約1600人の武者行列である。その行列に小田原保健医療学部の学生15名が参加した。

学生たちは、二代北条氏綱隊として甲冑を身にまとい、沿道に集まつた観客から声援を受けながら堂々とパレードした。

初代早雲役に小田原ふるさと大使で俳優の合

田雅吏さん、四代氏政役に俳優の高嶋政伸さん、五代氏直役に小田原ふるさと大使でタレント・俳優の柳沢慎吾さんが馬に乗って出演した。このイベントには、これまでで最も多いおよそ26万人が訪れた。

(総務課 村坂美希)



●甲冑姿の小田原保健医療学部の学生たち

Institution Information 施設インフォメーション

●国際医療福祉大学成田病院 ●国際医療福祉大学病院 ●国際医療福祉大学三田病院
 ●国際医療福祉大学熱海病院 ●国際医療福祉大学市川病院 ●国際医療福祉大学塩谷病院 ●山王病院

国際医療福祉大学成田病院

地域に開かれた病院として～ 第1回・院内コンサートの開催と地域の夏祭りへの参加

7月26日、開院以来初めてとなる院内コンサートを開催しました。医師8人と医学部生15人の総勢23人が1Fの総合ロビーでさまざまな楽器を用い、クラシックからジブリまで約10曲を演奏、院内外から集まった約300人に爽やかなひとときをご提供しました。このコンサートは、リハビリテーション科部長・角田亘教授と脳神経内科部長・村井弘之教授が、「病気と闘っている病棟や外来の患者様に音楽でひとときの癒しを」と企画したもので、医学部5・6年生に参加を募り実現した。

総合ロビーに配置されたグランドピアノをはじめ、バイオリン、チェロ、ビオラ、コントラバス、クラリネット、オーボエ、トランペットなどの演奏に聴衆から大拍手が送られた。

地域に開かれた大学病院として、今後も学生とともにさまざまな取り組みをご提供していく。



●病棟からの参加者と一般参加者をゾーニングして開催

国際医療福祉大学病院

中学生の社会体験活動 受け入れ再開

那須塩原市による中学生の社会体験活動「マイ・チャレンジ」が開催され、当院では6月26~30日の5日間、市立西那須野中学校2年生の女子3人と男子2人、計5人が業務体験を行った。

本イベントは、新型コロナウイルスの影響により2019年を最後に中断していたが、このたび4年ぶりに再開。生徒たちは、当院の薬剤部、看護部、予防医学センター、放射線室、検査室、リハビリテーション室、医事課などを回り、普段テレビで見ている病院の風景や医療機器、実技を交えた仕事内容に目を輝かせていた。また、受付業務体験では、来院された患者様に熱心に応対している姿が印象的で、体験終了後には「白衣を着られてうれしかった」「将来は医療の現場で働いてみたい」などの感想が聞かれた。

今回の業務体験は、生徒たちにとって非常に実りあるものになったと感じる。今後も社会活動への積極的参画を通じて、より地域医療に貢献していきたい。

(総務課 中野雄斗)



●高齢者体験装具を装着し、高齢の身体的低下や心理的变化を疑似的に体験

国際医療福祉大学三田病院

手術支援ロボット「hinotori™(ヒノトリ)」を導入 医療費あと払いサービスの運用を開始

当院では、7月に国産初となる手術支援ロボット「hinotori™ サージカルロボットシステム」を導入した。ロボット支援手術センター(8月1日開設／上田和センター長)の運営により、9月より泌尿器科(前立腺がん、腎がんなど)と婦人科(子宮体がん、子宮良性腫瘍、骨盤臓器脱)で症例を開始する。続いて、消化器外科でも「hinotori™」を使用した手術(肝臓がん)を来春に開始予定である。

現在、医師をはじめ、看護師、臨床工学技士等の手術スタッフが一丸となり、手術に向けて入念にトレーニングに励んでいる。「hinotori™」を最大限に活用し、患者様の身体により負担の少ない、安全で精度の高い治療の提供をめざしている。

医療費支払いにおいても、7月より会計計算を待たずに行われる医療費あと払いサービス「待たずにラク～だ」の運用を開始し、患者様の待ち時間の軽減にも努めている。



●トレーニング中の大東副病院長(泌尿器科／右)と永吉医師(婦人科／左)

(総務課 青島千恵)

国際医療福祉大学熱海病院

「第7回 医療連携協議会」を開催

7月1日、成田市の社会福祉法人大成会が4年ぶりに「あじさい祭り」を開催、当院にお声がけいただき子どもたちへの「職業体験」に初めて参加した。成田警察署、三里塚消防署、成田市郵便局、ANA、JR、ユニセフ協会など各団体が参加するなか、当院からは祐川晃子副部長をはじめとする看護部が、施設の子どもたちに「医師と看護師の制服着用体験」「ステートで心臓の音を聴いてみよう」「赤ちゃんを抱っこしてみよう」「救急車を間近で見てみよう」などいろいろな体験を提供した。

当日はあいにくの雨模様で縮小開催となったものの、約50人の子どもたちがとても楽しそうにお仕事体験に参加してくれたのが印象的だった。新型コロナウイルス感染症が5類に移行しいろいろなイベントが復活してきたなか、今後も地域の方々とコミュニケーションを図りながら、こうしたイベントに積極的に参加していきたい。

(広報室)



●ER看護師の山下さんと松岡さん

●白衣を着用して祐川副部長と

●質問を受ける竹内副院長

●懇親会の様子

●質問を受ける竹内副院長

国際医療福祉大学市川病院

大谷病院長が「2022年度 日本整形外科学会功労賞」を受賞

当院の大谷俊郎病院長が、「2022年度 日本整形外科学会功労賞」を受賞した。その表彰式が5月10日に神奈川県横浜市のパシフィコ横浜会議センターにて行われ、賞状と記念品目録が授与された。

日本整形外科学会功労賞は、「受賞の年の4月1日現在67歳以上の整形外科学分野の医師のうち、整形外科学および医療の進歩普及に顕著な功績があつた者に授与（引用：日本整形外科学会表彰規程）」される大変名誉ある賞である。大谷病院長は、スポーツ医学分野における医療への貢献で顕著な功績を残したことが評価され、このたびの受賞となった。

受賞にあたり、大谷病院長は、「整形外科医にとって日本整形外科学会から功労賞をいただることは最高の名誉であり、関係各位に心から感謝申し上げます」と喜びのコメントをした。

(総務人事課 高田聰)



●パシフィコ横浜会議センターにて行われた表彰式

●受賞の挨拶をする大谷病院長

山王病院

リプロダクティブ卵子凍結(社会的卵子凍結)を開始

当院のリプロダクション・婦人科内視鏡治療部門では、6月よりリプロダクティブ卵子凍結(社会的卵子凍結)を開始した。

「社会的卵子凍結」とは、健康な女性が卵子の加齢による妊娠率の低下を回避するため、若いときの卵子を採取・凍結保存することで、妊孕性を温存する(将来、自分の子どもを授かる可能性を残す)療法である。将来、妊娠を希望したときに凍結した卵子を融解し、体外受精(生殖補助医療：ART)を用いて妊娠をめざす。

7月22日には、堤治名譽病院長をはじめリプロダクション部門部長の久須美真紀医師、不妊技術室室長代理の猪鼻達仁培養士が講師を務め、さんのう健康講座「プレコンセプションケアとリプロダクティブ卵子凍結」を実施した。会場とWeb視聴の合わせて80人を超える申し込みがあり、会場では多くの質問が寄せられ盛会に終わった。(総務課 山本悦子)



●質問に答える堤治名譽病院長

●久須美医師の講義

2023年度

年間成績優秀賞決定

2023年度年間成績優秀賞受賞者が下記の通り決定し、各キャンパスで表彰式が行われた。この賞は、各学科2年生以上を対象とし、学業成績などが優れた学生への

顕彰を目的としている。受賞者には奨学金が授与される。今年度は5キャンパス83人が受賞した。昨年に引き続き今年度も表彰式は対面形式で行った。

大田原キャンパス

保健医療学部

看護学科	2年	梁取 こころ
	3年	非公表
	4年	菊地 純香
理学療法学科	2年	菊地 陽奈子
	3年	会田 壮一郎
	4年	小泉 涼太
作業療法学科	2年	島崎 有沙
	3年	奥原 健介
	4年	耕田 春菜
言語聴覚学科	2年	新井 理香
	3年	倉井 美波
	4年	藤田 陽生
視機能療法学科	2年	佐々木 結衣子
	3年	吉田 彩菜
	4年	齋藤 明日香
放射線・情報科学科	2年	秋元 凌輔
	3年	井田 裕葵
	4年	谷津 航太

医療福祉学部

医療福祉・マネジメント学科	2年	坂寄 夏菜
	3年	佐々木 彩乃
	4年	石井 亜実

薬学部

薬学科	2年	星野 優里
	3年	新垣 花奈
	4年	清水 理沙
	5年	千原 史愛
	6年	藤平 ほのか



成田キャンパス

成田看護学部

看護学科	2年	宮内 累樺
	3年	葛野 早希
	4年	鈴木 千鶴

成田保健医療学部

理学療法学科	2年	一井 未来
	3年	橋本 南

東京赤坂キャンパス

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部

心理学科	2年	川井 若菜
	3年	太田 麻里菜
	4年	飯村 康子
医療マネジメント学科	2年	萩原 結香
	3年	久保田 哲郎
	4年	伊崎 沙羅



小田原キャンパス

小田原保健医療学部

看護学科	2年	次藤 里妃
	3年	菊田 優也
	4年	櫻井 杏奈

医学部

医学部	2年	KHIN NYEIN CHAN KHIN
	2年	SU SU SOE SAN
	2年	NGUYEN HOANG VIET
	3年	MICHAEL
	3年	倉茂 すず
	3年	山口 穂
	4年	アバザテ ダニエル アリヤ
	4年	松田 悠
	4年	塩屋 沙季

大川キャンパス

福岡保健医療学部

理学療法学科	2年	森 琴未
	3年	鬼丸 万実
	4年	森 泉沙紀
作業療法学科	2年	上小鶴 明花
	3年	赤司 望愛
	4年	青山 孝介
言語聴覚学科	2年	友寄 純
	3年	村田 杏子
	4年	斎藤 英恵
医学検査学科	2年	土井富 優佳
	3年	伊東 和奏
	4年	武田 紗佳

福岡薬学部

薬学科	2年	植木 歩夢
	3年	非公表
	4年	今林 奏子

●大川年間成績優秀賞表彰式

●成田年間成績優秀賞表彰式

顕彰を目的としている。受賞者には奨学金が授与される。今年度は5キャンパス83人が受賞した。昨年に引き続き今年度も表彰式は対面形式で行った。

Topics 2

IUHWグループにおける注目の出来事や話題を紹介します。

那須こどもの家で体験乗馬会開催

8月10日、国際医療福祉大学大田原キャンパス内にある社会福祉法人邦友会児童心理治療施設那須こどもの家の前庭において、体験乗馬会が開催された。

この体験乗馬会は、全国乗馬俱楽部振興協会と那須こどもの家が共催したもので、宇都宮市にある乗馬俱楽部からトレーナーを派遣してもらい、5頭の馬を馬運車で連れてきて行われた。夏空の下、那須こどもの家に入所している

子どもたちの他、近隣の児童養護施設に入所している子どもたちも参加して、40人の子どもが乗馬を体験した。馬と触れ合った参加者からは一様に笑顔がこぼれた。

馬や体験乗馬会の様子を見るために大田原キャンパス内にある「金丸こども園」の園児たちや「なす療育園」、「サポートハウス那須」、「おおたわら総合在宅ケアセンター」の利用者も会場を訪れた。

馬を引くトレーナーの補助として、国際医療福祉大学大田原キャンパスや東京赤坂キャンパスから学生13人がボランティアとして参加した。子どもたちの乗馬体験後、学生ボランティアも乗馬を体験。夏休みの貴重なひとときとなつたようだ。
(那須こどもの家 田中浩之)

白河高等学校と高大連携協定調印式を実施

5月10日、大田原キャンパスにおいて福島県立白河高等学校様と高大連携協定調印式を実施し、今回の締結で大田原キャンパスの高大連携協定校は9校目となった。

協定締結後、矢森校長先生より「那須・白河地域の連携を深め、生徒を育てていきたい」とご挨拶をいただき、鈴木学長も「歴史ある同校と協定を結ぶのは大変意義深い。今後相互の交流を通して教育の質を高めていきたい」と挨拶した。

同校は、福島県教育委員会が取り入れた教育プログラム「保健・医療コース」に今年度より指定され、医療系大学への進学に向けた学習・進路指導の強化に取り組んでいる。生徒の医療福祉分野への関心や意識を向上させるプログラムの提供のほか、教員間の交流など高校・大学が一体となった教育の取り組みを強化していく。

(入試広報室 川上二郎)



第11回キッズスクールを開催

8月10日、大田原キャンパスにて4年振りとなる「第11回キッズスクール」を開催した。楽しみながら医療福祉の世界を体験するプログラムに、小学生58名、中学生57名が参加した。小学生は患者体験を通して体のしくみや働きを学ぶ「利用者コース」に、中学生は医療福祉の現場を体験しながらさまざまな職業を学べる「従事者コース」にそれぞれチャレンジした。

体験後には、鈴木康裕学長から参加者全員に「ヘルスケア・ジュニアアドバイザー(HJL)」認定証が授与された。
(総務課 深澤望)



International University of Health and Welfare IUHW CONTENTS vol.134 September 2023

2~3 特集1 國際交流・海外医療活動の取り組み

4~5 特集2 医学部2期生、4週間の海外臨床実習

6~7 学会レポート
高木理事長、第123回日本外科学会定期学術集会で特別講演
第31回日本心血管インターベンション学会学術集会 レポート

8~9 オープンキャンパスレポート

大田原キャンパス／成田キャンパス／東京赤坂キャンパス／小田原キャンパス／大川キャンパス

10~11 トピックス1 福井トシ子副大院長着任のお知らせ

「東京ゆかりのバラアスリー」認定選手に／第27回あいおいニッセイ同和損害保険奨学生認証式開催／「小田原北條五代祭り」でパレード

12~13 施設インフォメーション

成田病院／国際医療福祉大学病院／三田病院／熱海病院／市川病院／塩谷病院／山王病院

14 2023年度 年間成績優秀者決定

15 トピックス2 那須こどもの家で体験乗馬会開催／白河高等学校と高大連携協定調印式を実施／第11回キッズスクールを開催

16 キャンパスプラス1 クラブ・サークル紹介 バレーボールサークル Moim(東京赤坂キャンパス)

各キャンパスの学生たちが思い思いに活躍するクラブ・サークルをご紹介します。

東京赤坂キャンパス編

バレーボールサークル Moim

私たちは現在、1年生14人、2年生14人の合計28人で、毎週水・金曜日の18:00~21:00、東京赤坂キャンパスの体育館にて活動をしています。2023年度に新しく設立されたばかりで、現在、所属するメンバーは低学年のみというフレッシュなサークルです。

メンバー間ではこのサークルをMoimという愛称で呼んでいます。Moimとは韓国語で「集う・集まる」という意味があるので、学年・学科・経験問わずたくさんの学生に入ってもらいたいという思いが込められています。今後は東京赤坂キャンパスのサークルのなかで所属人数が1番多いサークルにしていきたいと思っています。

メンバーには、大学に入ってからバレーボールを始めた人も、長くバレーボールを続けてきた人もいますが、経験の差にかかわらず一緒に仲良く賑やかな雰囲気で日々活動しています。

練習では、10分から15分を目安に基礎練習やミニゲームを通して体を温めてから試合をしています。勝ち負けにこだわらず、声を掛け合いながら楽しい雰囲気のなか試合をしています。新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いてきたこともあり、現在は制限なく活動できるようになりましたが、今後も感染症対策を徹底するよう意識しています。

メンバー同士は、バレーボールの活動だけではなくさまざまなイベントを通して交流を図っています。サークル活動以外の場でも一緒に行動するメンバーも多



●学年・学科・経験の差を越えて仲良く活動しています！

く、皆仲が良いのがこのサークルの最大の売りです。まだまだメンバーを募集していますので、興味のある東京赤坂キャンパスの学生の皆さんには代表までご連絡をお願いします。また、定期的にサークルのインスタグラムに活動の様子を掲載しています。ぜひ、インスタグラムもチェックしてみてください。(詳細はmoim_iuhw_akasakaで検索してみてください)

東京赤坂キャンパス バレーボールサークル代表
医療マネジメント学科2年 本屋慧人



●試合中もメンバー同士声を掛け合い楽しい雰囲気



●東京赤坂キャンパスの体育館で
思い切りプレーするメンバー